

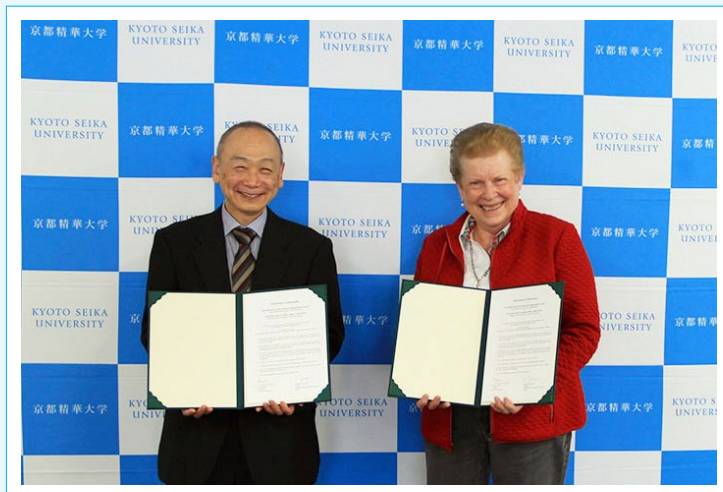
## 第2部 展示・イベント等事業レポート

### 第3章 その他の事業

# 海外における 協力事業

**実施概要** 2022年10月、京都精華大学は、フランスの研究機関「アルザス日本研究欧州センター（CEEJA）」(フランス)と、学術交流に関するMOUを締結した。また、12月には、2019年に締結された「国立台湾歴史博物館」(台湾)との「学術研究交流協定書」が更新されている。これら海外研究機関との包括協定に基づく実際の学術交流を、IMRCが担った。●当方から提供された知見は、同地それぞれに創設が計画されているマンガ関連文化施設に反映される予定である。

## 締結式風景



CEEJAと京都精華大学のMOU締結式にて。  
右=Catherine Trautmann・CEEJA所長、左=澤田昌人・京都精華大学学長。

# 文化庁 メディア芸術 連携基盤等 整備推進事業

## 基本情報

### 担当

吉村和真(「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」および「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」統括アドバイザー)/  
伊藤遊(同統括アドバイザー支援)

**実施概要** 2010年度から始まった「メディア芸術情報拠点・コンソーシアム構築事業」以来、マンガ資料(刊本および原画)のアーカイブ——〈収集〉〈整理・保存〉〈活用〉——を実践し、その発展のための体制を推進するネットワークの構築とハブとなる拠点の確立を目的とする文化庁事業の中心的な役割を、IMRCが担い続けている。第3フェーズと言える「メディア芸術連携基盤等整備推進事業」の3年目の事業として、以下の2つの事業が実施された。

## 事業一覧

### ● 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」

#### 実施事業

(「実施計画書」より)

- ・ マンガ刊本アーカイブセンターの実装化に向けた調査研究
- ・ 刊本ネットワーク所蔵リストの構築準備
- ・ 刊本プール資料の仕分と移送に関する作業実験
- ・ 「マンガアーカイブ機構(仮称)設立」に向けての原画/刊本事業の合同会議開催

#### 連携機関・団体

- ・ 熊本大学(事業者)
- ・ 明治大学/米沢嘉博記念図書館
- ・ 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- ・ 北九州市漫画ミュージアム
- ・ 高知まんがBASE
- ・ NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト/合志マンガミュージアム

### ● 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」

#### 実施事業

(「事業計画書」より)

- ・ マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携に向けた調査研究
- ・ 相談窓口の開設
- ・ 所蔵館ネットワークの構築
- ・ 専門人材の育成
- ・ 収益事業及び支援体制構築の調査
- ・ 「集英社マンガアートヘリテージ(SMAH)」との連携による原画保存に関する共同研究の実践
- ・ 著作権管理等に関する合同税務学習会の開催
- ・ 「マンガアーカイブ機構(仮称)設立」に向けての原画/刊本事業の合同会議開催

#### 連携機関・団体

- ・ 一般財団法人横手市増田まんが美術財団(事業主)
- ・ 横手市増田まんが美術館
- ・ 明治大学
- ・ 京都精華大学/京都国際マンガミュージアム
- ・ 北九州市漫画ミュージアム
- ・ 熊本大学
- ・ NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト
- ・ 鳥取県北栄町
- ・ 石ノ森萬画館
- ・ 湯前まんが美術館

# 京都国際マンガミュージアム／IMRC所蔵資料 および画像データ提供一覧(2022年1月-12月)

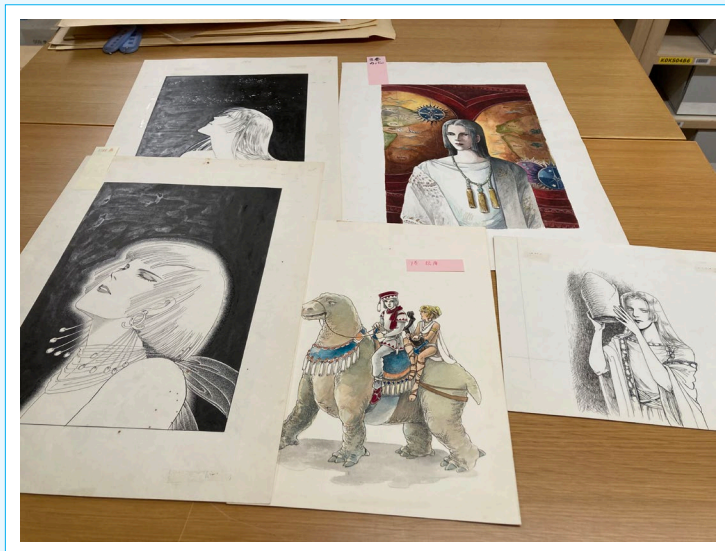
## 提供一覧

資料名	データ/現物	提供先	用途
・ 大田耕士「日本犬デー、街でみた風景」 〔東京バック第25巻第7号、有楽社、1936年〕	画像データ	河合出版	「河合塾マナビス」 高校生対象共通テスト対策 「日本史B〈近代〉習得度テスト」 での掲載
・ 下川四天「芋川椋三とブレ」 〔東京バック第11巻22号、有楽社、1915年〕	画像データ	電通ライブ	ウェブサイト 「JAPAN HOUSE Los Angeles」 編集部による、日本のアニメーションの 歴史に関する、Facebook ( <a href="https://www.facebook.com/JapanHouseLA/photos/a.513044145740558/1539484919763137/">https://www.facebook.com/JapanHouseLA/photos/a.513044145740558/1539484919763137/</a> ) およびTwitter ( <a href="https://twitter.com/JHLosAngeles/status/1484643376544759812?s=20">https://twitter.com/JHLosAngeles/status/1484643376544759812?s=20</a> ) 記事での掲載
・ 「東京バック第11巻第7号(有楽社、1915年)表紙 ・ 「馬から落ちるぞ」〔東京バック第11巻第10号、有楽社、1915年〕	画像データ	帝国書院	高校教科書「明解 歴史総合」 (帝国書院、2022年2月)および 教師用指導書での掲載
・ 尾崎三郎「ショーウィンドーの内から覗いた初夏の交錯」 〔東京バック第22巻第6号、有楽社、1933年〕	画像データ	実教出版	高校教科書「歴史総合」および 『歴史総合 演習ノート』 (実教出版、2022年2月)での掲載
・ 山田えいじ「ベスよおをふれ 完全復刻版」 (小学館クリエイティブ、2007年)表紙 ・ たかなし♥しずえ、雪室俊一原作「おはよう!スパンク」第1巻 (講談社、1978年)表紙 ・ 田川水泡『のらくろ武勇談』(復刻版、講談社、1969年)表紙	画像データ	Prestel Pub	Okazaki Manami 『Japan's Best Friend: Dog Culture in the Land of the Rising Sun』 (Prestel Pub、2022年3月)での掲載
・ 『週刊少年ジャンプ』1970年第27号、集英社、1970年 (中沢啓治「オキナワ」掲載)	現物撮影	NHK佐賀放送局	テレビ番組 「NHKニュース ただいた佐賀」 における報道「「はだしのゲン」作者が 描いた沖縄」(4月27日放送)での 現物紹介
・ 北沢葉天「お国気質」〔東京バック第5巻第35号、有楽社、1909年〕	画像データ	朝日新聞出版	「ロシアはオオカミ 日本はブルドッグ ロシアを知るためのメディアガイド」 『AERA』 2022年8月15日-22日合併増大号 (朝日新聞出版、2022年8月)にて 吉村和真の「オススメマンガ」として掲載
・ 「鉄鞆捨てて」〔大阪バック第12年第13号、大阪バック社、1917年〕	画像データ	駿台文庫	教育教材「2022名大入試実戦模試」 での掲載
・ 『週刊少年サンデー』1962年第23号、小学館、1962年 ・ 『週刊少年サンデー』1970年第45号、小学館、1970年 ・ 『週刊少年サンデー』1982年第22号、小学館、1982年 ・ 『週刊少年マガジン』1961年第20号、講談社、1961年 ・ 『週刊少年マガジン』1970年第6号、講談社、1970年 ・ 『週刊少年マガジン』1971年第16号、講談社、1971年 ・ 『週刊少年マガジン』1972年第45号、講談社、1972年 ・ 『週刊少年マガジン』1979年第23号、講談社、1979年	現物	合同会社部活	展覧会「鉄道マンガ展@奥出雲」 (於・鉄の彫刻美術館、9/23-11/23) への出展

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歌川国芳「源頼光公館土蜘蛛妖怪図」</li> <li>・ 歌川国芳「道化武者づくし」</li> <li>・ 「死者におびえる鯰の親子」</li> <li>・ 『月刊漫画ガロ』1966年3月号、青林堂、1966年</li> </ul>	<p>現物 龍谷大学文学部</p>	<p>展覧会「2022年度 龍谷大学文学部 博物館展覧会 「2022年度 龍谷大学文学部 博物館実習 十二月展 わざわいと人々 ～安寧来たれと願う今～」 (於・龍谷ミュージアム、12/7-10)への出展</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャールズ・ワグマン『THE JAPAN PUNCH』 1883年5月号、1883年</li> <li>・ 『少年バック』第2巻第7号、東京少年バック社、1908年</li> <li>・ 『トバエ』第2巻第3号、トバエ社、1917年</li> <li>・ 岡本一平・編『児童漫画集』興文社、1927年</li> <li>・ 『漫画の国』第3巻第33号、日本漫画研究会、1937年</li> <li>・ 『漫画の国』第3巻第36号、日本漫画研究会、1937年</li> <li>・ 『漫画の国』第4巻第45号、日本漫画研究会、1938年 (「特集 出征将兵慰問号」掲載)</li> <li>・ 『漫画の国』第5巻第60号、日本漫画研究会、1939年 (「国策漫画特報」掲載)</li> <li>・ 『漫画の国』第5巻第62号、日本漫画研究会、1939年 (「独逸漫画研究のすすめ」掲載)</li> <li>・ 『漫画の国』第6巻第76号、日本漫画研究会、1940年 (「戦争と漫画 戦争は漫画にどう影響するか」掲載)</li> <li>・ 田川水泡「名作リバイバルシリーズ No.16 のらくろ伍長勤務上等兵」普通社、1963年</li> <li>・ 田川水泡『のらくろ上等兵』(復刻版) 講談社、1967年</li> <li>・ 田川水泡「少年倶楽部名作選 別巻 のらくろ漫画全集」 講談社、1967年</li> <li>・ 山本鈴美香『エースをねらえ!』第1巻、集英社、1973年</li> <li>・ ちばてつや『おれは鉄平』第15集、講談社、1985年</li> <li>・ 岡本一平、清水勲・編『漫画漫文集』岩波書店、1995年</li> </ul>	<p>現物撮影 テレビ朝日</p>	<p>テレビ番組 『大下容子ワイド! スクランブル』 内コーナー「松岡修造の 全力応援NEWS!」(12月15日放送) での現物紹介(吉村和真取録対応)</p>

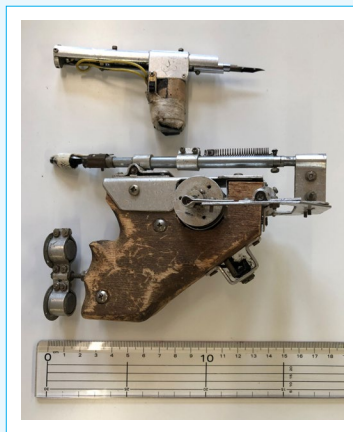
## 寄贈受入資料の紹介

**佐藤史生氏 / 増山法恵氏** マンガ家の故・佐藤史生氏の原画と所蔵品とマンガ原作者の故・増山法恵氏の所蔵資料の寄贈を受け入れた。●佐藤史生氏は「夢みる惑星」、「ワン・ゼロ」などの人気作品を遺したマンガ家で2010年に他界した。その後、佐藤氏の原画は、竹宮恵子氏のマンガ「変奏曲」の原作などを担当した増山法恵氏により保管されていたが、増山氏の逝去によりIMRCに寄贈された。資料の内容は、佐藤史生氏および複数のマンガ家の原画、ネーム、肉筆同人誌、書籍などである。



整理中の佐藤史生作品原画の一部。

**みやわき心太郎氏** マンガ家の故・みやわき心太郎氏が自作し、自身の作画のために使用していた「電気式自動点描器」2点の寄贈を受け入れた。●みやわき作品は、緻密な点描を効果的に使った作画で知られるが、創作の舞台裏を知ることのできるきわめて貴重な資料と言えるだろう。



みやわき心太郎氏自作の「電気式自動点描器」。

# 原画'(ダッシュ) プロジェクト

**実施概要**「原画'(ダッシュ)」とは、コンピューターに原画を取り込んで色調整を重ねた上で印刷された、原画と並べても見分けのつかないほど精巧なマンガ原稿の複製である。退色しやすいデリケートなマンガ原稿の保存と公開を両立させるために開発され、マンガ家で京都精華大学元学長の竹宮恵子氏をプロジェクトリーダーに、京都精華大学国際マンガ研究センターと京都国際マンガミュージアムが共同で研究を進めている。●「原画'(ダッシュ)」プロジェクトでは、2001年以来、監修者・竹宮氏を含む作家27名の約850点の「原画」を制作してきた。●2022年度の新規原画'制作は新型コロナウイルス感染症の拡大のため見送られたが、過去に制作した原画'(ダッシュ)の図録を再刊行した。

## 基本情報

### 担当

ユースギョン/

倉持佳代子(京都国際マンガミュージアム)

## 図録



再刊行された『少女マンガの世界  
原画'(ダッシュ)10年の軌跡』  
(竹宮恵子・監修、  
京都精華大学国際マンガ研究センター/  
京都精華大学、2011年初版発行)の表紙。

**国内外における原画'(ダッシュ)の活用** 原画'(ダッシュ)は、破損や紛失したら取り返しがつかない原画に替わって、国内だけでなく、フランス、ドイツ、オーストラリアなど、海外の展覧会にも積極的に出品されてきたが、コロナ禍下の2022年に出展はなかった。

## IMRCメンバー業績等(2022年1月-12月)

## 業績一覧

<b>小泉真理子</b> Koizumi Mariko	<a href="#">学会発表</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際会議 “The Japanese Governmental Role for the Development of Video Games,” 12th International Conference on Cultural Policy Research, Antwerp, Belgium. (2022年9月、査読有り)</li> </ul>
	<a href="#">社会活動</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務省情報通信政策研究所 特別研究員</li> <li>同志社大学Well-being研究センター 嘱託研究員</li> <li>文化経済学会(日本) 学会誌編集委員</li> <li>情報通信学会学会誌編集委員</li> </ul>
<b>伊藤遊(イトウユウ)</b> Ito Yu	<a href="#">論文</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「マンガ原画のアーカイブ:文化庁メディア芸術事業を中心に」『デジタルアーカイブ学会誌』第6巻第1号、デジタルアーカイブ学会、2022年2月</li> <li>「アヴァンギャルドとしてのマンガ——ナンセンス漫画、劇画、ニューウェーブ」『美術フォーラム21』第45号、美術フォーラム21、2022年6月</li> </ul>
	<a href="#">論説・コラムなど</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>“MANGA”, Okazaki Manami, <i>Japan's Best Friend: Dog Culture in the Land of the Rising Sun</i>, Prestel Pub, 2022.3</li> <li>「原作マンガ[るろうに剣心——明治剣客浪漫譚——]の魅力」、ミュージカル「るろうに剣心 京都編」パンフレット、TBS、2022年3月</li> <li>「〈考現学マンガ家〉としての谷口ジロー——『歩くひと』を読む」『オリジナリ』11、ピーグرافフィックス、2022年6月</li> <li>「路上の「平民美術家」——「考現学」グループにおける「装飾」への関心」青幻舎編集部・編『昭和とモダン 看板デザイン 1920-30s』青幻舎、2022年7月</li> <li>「『悪魔くん』から『エヴァ』へ——千年王国、悪魔召喚、ユダヤ神秘主義」『怪と幽』vol.11、KADOKAWA、2022年8月</li> </ul>
	<a href="#">セミナー</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー「ユトレヒト図書館 マンガと日本文化(日本)マンガの(キャラクター)のひみつ」(オンライン、2022年2月26日)</li> </ul>
	<a href="#">シンポジウム</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム出演「日本マンガ学会第21回大会シンポジウム マンガ原画のいまと未来 第2部 原画を託す」(横手市増田まんが美術館、2022年6月19日)</li> </ul>
	<a href="#">出演など</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー「JAPAN FOUNDATION NEW DELHI ONLINE CULTURE COURSE WINDOW into JAPAN 2 HOKUSAI MANGA to/from CONTEMPORARY MANGA」(オンライン、2022年7月23日)</li> <li>研究会コメント「第10回関西ジェンダー史カフェ 漫画『アンナ・コムネナ』を読む」(キャンパスプラザ京都、2022年9月10日)</li> <li>ファシリテート「第25回文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門大賞『浦沢直樹の漫勉neo ～安彦良和～』受賞者トークセッション」(日本科学未来館、2022年9月17日)</li> <li>セミナー「『鈴原研一郎展』開催記念講演会 少女漫画『超』入門」(豊橋市中央図書館、2022年9月25日)</li> <li>セミナー「妖怪マンガの戦後史」(École supérieure des beaux-arts d'Alger [アルジェリア・アルジュ]、2022年10月6日)</li> <li>シンポジウム出演「熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター開設記念シンポジウム マンガ刊本アーカイブのめざすもの 第2部「刊本」と「原画」両アーカイブのさらなる連携へ向けて」(熊本大学、2022年12月10日)</li> </ul>
	<a href="#">展覧会制作</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>監修協力「漫画とデザイン展」(於・GOOD DESIGN Marunouchi、2022年2月28日[日]-3月31日[木])</li> <li>展示構成・テキスト執筆「デビュー 45周年 高橋葉介原画展 にぎやかな悪夢」(於・横手市増田まんが美術館、2022年5月1日[日]-7月18日[月])</li> <li>協力「(新聞)がつかないで漫画家たち 北九州の漫画文化を育てたもの」(於・北九州市漫画ミュージアム、2022年9月10日[土]-11月6日[日])</li> <li>テキスト執筆「鉄道マンガ展@奥出雲」(於・鉄の彫刻美術館、2022年9月23日[金]-11月23日[木])</li> </ul>
	<a href="#">その他</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費助成事業(基盤C) 「『学習マンガ』の表現構造と制作現場における意味生成プロセスの実証的研究」(研究代表者=山中千恵) 研究分担者</li> <li>科学研究費助成事業(基盤C) 「1930-50年代児童雑誌における『学習マンガ』ジャンルの形成に係る実証的研究」(研究代表者=瀧下彩子) 研究分担者</li> <li>文化庁メディア芸術連携等基盤推進事業 「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」/ 「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」 コーディネーター支援</li> <li>文化庁メディア芸術祭選考委員</li> <li>文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業協力者会議委員</li> <li>熊本県湯前町まんのまのまづくりアドバイザー</li> </ul>



<p><b>具本媛</b> Koo Bon Won</p>	<p><a href="#">学会発表・シンポジウム</a> <a href="#">など</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム出演 COWECO22 International Spring in Jeju [Alternatibe and Explorative Curriculum for East Asian Comics in Digital Era] (オンライン)(2022年4月29日)</li> <li>・シンポジウム出演 第3回国際マンガ・アニメ祭ReiwaToshima (IMART (アイマート)) “韓国における日本マンガの現状について” (オンライン)(2022年10月22日)</li> <li>・学会発表 Manga in a Postdigital Environment “The Differences between Manga and Webtoon based on the Change of Medium: The Making of the Webtoon Version of <i>Tanuki vs. Zodiac12</i>” (Spain, Vigo University, 2022年5月31日)</li> </ul>
<p><b>佐々木美緒</b> Sasaki Mio</p>	<p><a href="#">論文・報告等</a> <a href="#">その他</a> <a href="#">研修講師</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告「児童書研究会実施報告書2016-2021」(丸善雄松堂株式会社との共著) 2022年3月</li> <li>・「マンガで学ぶ日本語」東洋大学国際教育センター・ゲストスピーカー講演会 (オンライン, 2021年12月14日)</li> </ul>
<p><b>住田哲郎</b> Sumida Tetsuro</p>	<p><a href="#">学会発表等</a> <a href="#">社会活動</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育楽の射程と日本語教育実践者の専門性」言語文化教育研究学会第79回例会 (オンライン, 2022年1月22日)</li> <li>・「役割語とキャラクターの関係性に関する一考察——いわゆる〈王様語〉の分析を通じて——」2022年度台湾日本語学会国際学術シンポジウム(台湾・東呉大学, 2022年12月10日)</li> <li>・公益社団法人日本語教育学会 審査・運営協力員</li> <li>・NPO法人神戸定住外国人支援センター 定住外国人子ども奨学金実行委員会委員</li> </ul>
<p><b>ユースキョン</b> Yoo Sookyung</p>	<p><a href="#">学会発表・講演など</a> <a href="#">コラムなど</a> <a href="#">セミナー</a> <a href="#">シンポジウム</a> <a href="#">出演など</a> <a href="#">その他</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術発表(共同発表者:具本媛)「日本の大学のマンガ関連カリキュラムの現状」社団法人韓国漫画ウェブトゥーン学会上半期国際学術大会(2022年4月29日, オンライン)</li> <li>・学術発表「アフリカのコミック・マンガ文化の現状——西アフリカ諸国の例を中心に——」、日本アフリカ学会第59回学術大会(2022年5月21日, オンライン開催)</li> <li>・講演「日本マンガの歴史と市場について」駐ブルキナファソ日本大使館(2022年10月, オンライン)</li> <li>・解説「国境を超えて愛される波津彬子作品の魅力」『雨柳堂夢咄』文庫版其ノ十二(2022年2月発売)</li> <li>・出演「高校生と日本語学習者向けアニメテッドラーニング 2022」一般社団法人アニメテッドラーニングらぼ(2022年12月27日, 29日)</li> <li>・京都精華大学 萌芽の研究助成採択:「アフリカマンガ研究プロジェクト」</li> </ul>
<p><b>吉村和真</b> Yoshimura Kazuma</p>	<p><a href="#">論説</a> <a href="#">書評</a> <a href="#">雑誌記事</a> <a href="#">展示協力</a> <a href="#">学術イベント</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「「障害とマンガ」の多様な関係——作品・ジャンル・読者層——」(「特集 漫画で伝える——多様性を認める社会」)『新ノーマライゼーション』2022年1月25日号, 2-3頁。</li> <li>・時事通信社配信(2022年8月12日付「十勝毎日新聞」ほか複数紙に掲載): 石井徹著「少年マガジン」編集部で伝説のマンガ最強の教科書」(幻冬舎)。</li> <li>・「毎日新聞」「話題の本」連載(2022年10月-): 10月22日付, つるまいかだ「メダリスト」(講談社) 11月26日付, 小林まこと「JJM 女子柔道部物語」(講談社)</li> <li>・インタビュー「ロシアはオオカミ 日本はブルドッグ ロシアを知るためのメディアガイド」朝日新聞出版「AERA」2022年8月15日-22日合併増大号, 62頁。</li> <li>・テキスト執筆「鉄道とマンガの古くて深い関係——近代 駅からの出発——」, 「鉄道マンガ展@奥出雲」(於 鉄の彫刻美術館, 2022年9月23日[金]-11月23日[木])</li> <li>・シンポジウム・パネリスト「Digital Interactine Entertainment Conference 2022」(オンライン, 2022年3月5日)</li> <li>・シンポジウム・司会「熊本大学文学部附属国際マンガ学教育研究センター開設記念シンポジウム マンガ刊本アーカイブのめざすもの 第1部 国際マンガ学教育研究センターの展望」(熊本大学, 2022年12月10日)</li> </ul>

講演活動

- ・「手塚治虫のマンガに表れた“死生観”——「限られた命におけるいきがい」とは——」、滋賀県死生懇話会主催「漫画で語ろう“死生観”」2022年1月14日。
  - ・「差別と向き合うマンガたち——マンガ表現と読者の「読み(へんけん)」——」、大東市主催「アクロス人権講座 男女共同参画事業」2022年1月23日。
  - ・「差別と向き合うマンガたち——メガネ男子や大食漢がヒーローになれないのはなぜ?——」、貝塚市「2022 憲法週間市民のつどい」2022年5月20日。
  - ・「「マンガ界」の明日はどっちだ!?——関連施設の動向と自治体連携会議、そしてジャンプを手がかりに——」、熊本日日新聞社主催「第1回熊日マンガ文化賞」記念講演、2022年10月20日。
  - ・「歴史の授業における漫画資料活用の際の注意点について——「近代漫画とは何か」という問いへの回答——」、令和4年度京都府立高等学校地理歴史科・公民科研究会歴史部会講演会、2022年11月10日。
- 以上のほか、現代社会や人権問題に与えるマンガの影響力についての講演を複数回実施。

社会貢献

- ・文化庁令和4年度メディア芸術連携基盤等整備推進事業の分野別強化事業「マンガ原画アーカイブセンターの実装と所蔵館連携ネットワークの構築に向けた調査研究」/  
「マンガ刊本アーカイブセンターの実装化と所蔵館ネットワークに関する調査研究」アドバイザーのほか、戦略委員、有識者検討委員、自治体連携会議コーディネーターを務める。
- ・文化庁令和4年度文化芸術創造拠点形成事業審査員
- ・日本芸術院令和4年度外部有識者
- ・高知県、横手市、鳥取県、北栄町、淡路市、八幡市など複数の自治体で、マンガに関するアドバイザーや委員等を務める。

その他

- ・マンガに関するコメンテーターとして、全国ネットのテレビ・ラジオに複数回出演。